

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時：2023年7月18日 19時00分～20時00分
- 2 会場：○教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：○尿沈渣を極める①～赤血球、白血球編～
- 4 講師：○中川 禎己（小川赤十字病院）
室谷 明子（埼玉医科大学国際医療センター）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 246名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹
小針奈穂美 織田喜子

8 研修内容の概要・感想など

今回も Web での研修会となった。「尿沈渣を極める」シリーズ①として中川氏と室谷氏を講師に、赤血球編と白血球編を開催した。

講演1では中川氏より、血尿をきたす疾患を挙げ、尿沈渣検査において赤血球形態の観察から、出血部位の推定がわかるコツなどの講演がなされた。実際に顕微鏡を覗いているような動画を取り入れ、赤血球形態の鑑別方法を細かく解説された。また、形態鑑別が理解されているか、質問を交え確認しながら講演が進められていたことで、鑑別する力を身につけることができた。特に糸球体赤血球の報告は臨床にとって重要なものとなり、報告の意義・重要性を再確認でき大変参考になった。

講演2では室谷氏より、白血球検査の進め方について講演がなされた。尿検査において混濁尿（白血球尿）は日常的に遭遇する機会が多い。白血球尿は尿路感染症に対して臨床的意義が高い。また、細菌を伴う沈渣所見が見られると、さらに尿路感染症の可能性は高くなる。尿試験紙法における白血球反応と尿沈渣検査の白血球数に乖離がみられることがあるが、試験紙法では、さまざまな偽反応があることを念頭において評価することが重要である。白血球鑑別では①大きさ（赤血球との比較）、②形態（死細胞と生細胞により形態が異なる）、③染色性（浸透圧や pH に影響を受ける）などが挙げられた。また、白血球分画では良質な標

本作製の工夫も紹介され、参考になった。

尿沈渣検査は広く実施されている検査である。特に赤血球・白血球の鑑別は、臨床的意義が非常に高く遭遇する割合も高い。今回、鏡検動画による赤血球形態の鑑別や、白血球分画など細部にわたって紹介され、より理解が深まった。施設内の新人教育や鏡検技術向上として、今後もこのような研修会を取り入れていきたい。

提出日：2023年 8月 21日

文責：織田喜子